

わちエダより

題字 吉田蒼月

Vol.43

平成29年(2017年)
3月発行

診療情報

整形外科

スポーツ整形分野の
新たな取り組み

患者さんの人生を見つめながら
総合的な治療を提供

八千代病院 整形外科部長
與田正樹 医師

結果報告

平成28年度
外来・入院患者満足度調査

スポーツ整形を専門とする医師が加わり、 整形外科の診療機能が拡大しました。

当院の整形外科では従来の診療領域に加え、スポーツ整形分野の診察・治療が始まり、これまで以上に診療機能が拡大しています。今回の診療情報では、スポーツ整形分野の傷病や新たな取り組みについてご紹介します。

地域に不足していた関節鏡手術を提供

整形外科では骨折や捻挫^{ねんざ}といった外傷のほか、変形性関節症、手足のしびれなどの診断・治療を行っています。現在、日本は高齢化が進み、高齢者の背骨の圧迫骨折、大腿骨頸部骨折などが増えて社会問題になっていますが、当院でもそうした患者さんが多く、リハビリと連携した治療を行っています。

一方で、三河地域は膝や肩などの傷病への関節鏡手術を受けられる病院が少なく、地域の医療ニーズに対応するかが課題でした。当院には昨年からはスポーツ整形を専門とする整形外科医が着任し、診療機能を充実させています。

当院の整形外科で扱う主な傷病

関節疾患 肩・肘・手・股・膝・足関節の疾患

▶変形性関節症、関節リウマチ など

外 傷 事故などによるケガ

▶骨折、捻挫、脱臼、靱帯損傷 など

スポーツ傷害 スポーツに起因する障害・外傷

▶膝前十字靱帯損傷、半月板損傷、肩腱板断裂 など

頭頸部から胸椎・腰椎までの脊椎・脊髄に関する疾患については、「**脊椎・脊髄疾患センター**」の専門医と連携しながら診断・治療を行っています。

- 椎間板ヘルニア
- 脊柱管狭窄症
- 頸椎後縦靱帯骨化症
- 腰椎すべり症 など

患者さんへの負担が少ない関節鏡手術

関節鏡を使った鏡視下手術は、大きく切開をする手術に比べて患者さんへの負担が少ないのが特色です。以下に、さまざまなメリットをご紹介します。

- 傷が小さく、痛みが少ない
- 正常な組織を傷つけにくい
- 手術痕が小さく、目立たない
- 入院期間が短く、早期のリハビリ、復帰が期待できる
- 手術時、カメラで患部を拡大して観察できる



関節鏡手術を行う、主な整形外科の傷病

スポーツ整形の分野で扱う代表的な傷病と関節鏡手術について、ご紹介します。

膝

ひざぜんじゅうじんたい

膝前十字靱帯損傷

前十字靱帯が断裂すると、膝がガクツとなり、ずれたように感じます。そのままでも痛みがおさまり歩けるようになりますが、やがて半月板や軟骨が損傷するなど症状が悪化します。スポーツ中に発症することが多いケガです。

治療法は

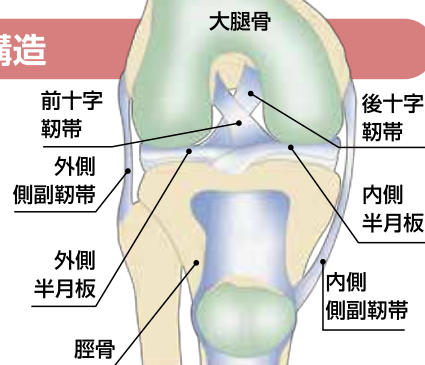
膝前十字靱帯再建術

患者さんのスポーツや体型を考慮した上で、自分の膝の内側にある屈筋腱、もしくは膝蓋腱しつがいを取って、膝関節内に移植します。半月板損傷がある場合は、将来を考慮してできるだけ半月板を縫合しています。



膝関節の構造

膝を90度
曲げて
正面から
見たところ



POINT

膝前十字靱帯を損傷した場合は、半年以内に手術することが重要です。放置しておくと半月板や軟骨を高い確率で損傷し、最終的には膝が変形して、将来、人工関節にせざるを得なくなる場合もあります。靱帯再建術を行うと、スポーツの現場へ復帰するまでに10か月程かかるため、無理をして続ける人も少なくありません。しかし、生涯にわたりスポーツや運動を楽しむためにも、早めの手術をおすすめしています。

肩

かたけんばん

肩腱板断裂

肩を動かす腱板が切れ、肩を上げるときに痛みが出たり、腕が上がらなくなったりします。原因は外傷のほか、老化によって腱が弱くなって起こることが多く、70歳以上の2人に1人は損傷があるとも言われます。

治療法は

肩腱板断裂修復術

リハビリや注射などの保存的療法で効果が見られない場合は、関節鏡視下で断裂部分を修復します。五十肩と思い込んでいると腱板断裂が隠れている場合もあり、まずはMRIやエコーでの画像診断をおすすめします。

足

ぜんきょひじんたい

前距腓靱帯損傷

スポーツ外傷で最も頻度が高いケガで、いわゆる足首の捻挫です。足に痛みや腫れが出て、歩きにくくなります。適切な治療を早く行わないと、関節が不安定になったり、捻挫を繰り返すようになってしまいます。

治療法は

前距腓靱帯修復術

保存的療法を行っても、いつまでも足首がグラグラする場合は、関節鏡視下で断裂した靱帯を修復します。愛知県では足の関節鏡視下手術を行う医師が少ない中、当院では専門医が対応します。

より良い治療を求めて、連携を重視

整形外科ではより良い治療のために、診療科や病院の垣根を越えた連携を大切にしています。

連携 1 鮮明な画像が診断・治療をサポート

膝や肩の傷病は医師の所見も大事ですが、MRIやCT、エコーなどによる画像診断が非常に重要です。当院では整形外科と画像診断部が連携し、医師と技師が話し合いながらより良い撮影方法を検討。関節鏡手術で全国有数の治療実績のある病院の画像撮影方法を参考にするなど、これまで以上に鮮明な画像を診断・治療に活用しています。



ゼブリス FDM
(足圧測定システム)



連携 2 リハビリテーションの充実が回復を支援

連携 2

治療においては、まず患者さんの負担の少ない保存的療法を考え、リハビリを行っても治らない傷病について手術を適用する方針をとっています。当院は土日もありリハビリを行うなど、充実したリハビリによって早期の回復を促し、膝前十字靭帯再建術の入院期間は平均12日です。

また、総合リハビリテーションセンターでは、最新の歩行解析システムを使い、前十字靭帯再建術の前後の歩行について理学療法士が分析を進めるなど、より良い治療につながる研究にも力を入れています。

連携 3 専門性の高い診療科や地域の病院と共に

当院は脊椎・脊髄疾患センターやペインクリニック外科など高い専門性を持つ診療科を開設しており、疾患に応じて連携が図れるのも強みです。シビレなどを訴える患者さんの中には内科疾患が隠れていることもあり、神経内科や総合内科と連携して診断することもあります。内科疾患を持つ患者さんの術前術後の管理も、各専門科(消化器・循環器・呼吸器・腎臓・内分泌代謝)と協力して行えるので安心です。

院外では安城更生病院と連携して地域の患者さんの治療にあたっているほか、診療所や大学病院とも連携し、患者さんに最適な治療を提供できるよう努めています。



患者さんの人生を見つめながら 総合的な治療を提供

スポーツ整形外科医であり、プロスポーツチームの
チームドクターとしても活躍する與田正樹整形外科部長。
この地域では手薄だった関節鏡手術のエキスパートとして、
当院の整形外科に新たな特色を生み出そうとしています。
チームドクターとしての活動や患者さんへの想いを聞きました。



八千代病院 整形外科部長
與田 正樹 医師

チームドクターとしてプロ選手をケア

学生時代にラグビーをやっていて私自身もケガをすることが多かったため、スポーツ整形の道に進みました。現在は病院での診療に加え、ラグビーやサッカーなどプロチームのチームドクターとしても活動しています。試合に帯同し、選手に注射を打ったり、止血や縫合をしたりと現場で治療を行うほか、ケガの手術なども行っています。

試合前のロッカールームで医師の立場から選手とふれあうこともあり、こちらも熱い気持ちになって、いろいろなことを勉強させてもらっています。

患者さんの長い人生を守るために

部活に打ち込む学生さんがケガをし、手術が必要になったときに話すのは、手術後に記録が良くなったプロ選手の事例です。落ち込む気持ちはよく分かりますが、「ここで切り替えて頑張ろう」と励ましています。

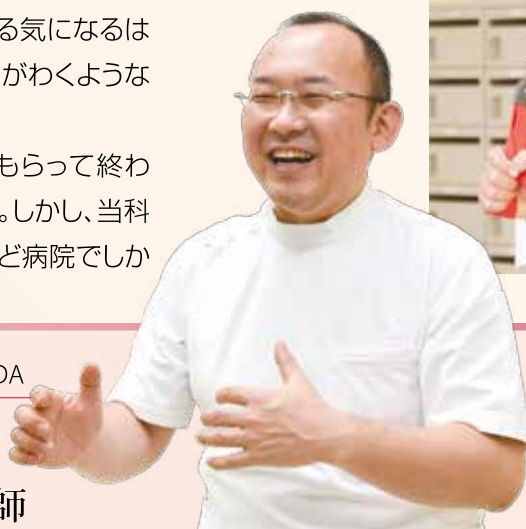
中には、手術をすると試合に出られないという理由で、手術の決心がつかない方もいます。ただ、その方の長い人生を考えれば、治療の先延ばしが後悔につながることも少なくありません。だからこそ、納得して治療を受けていただけるよう、患者さんの人生を見すえて丁寧に説明しています。

肉體年齢を維持しましょう

ご高齢の患者さんにお話しするのは、肉體年齢と暦年齢は違うということです。何歳になっても鍛えれば、筋力はつき、肉體年齢は維持できます。筋力があれば、高齢の方に多い骨折や転倒も少なくなります。運動を続ければ痛みが減り、その効果にまたやる気になるはず。そういった好循環へ導くために、意欲がわくような運動を指導したいと考えています。

整形外科というと痛み止めや湿布をもらって終わり、というイメージがあるかもしれませんが、しかし、当科では手術や注射、ストレッチ、生活指導など病院でしか

できない総合的な治療を提供し、「当院に来て良かった」と患者さんに満足いただくことが目標です。



Doctor's
Introduction
ORTHOPEDICS

Profile Dr. Masaki YODA

プロフィール

よ だ ま さ き

與田 正樹 医師

手術の90%が関節鏡視下手術(膝・肩・足)という前任の病院で、スポーツ整形外科医として多くの手術を実施。現在、豊田自動織機(ラグビー)、FC岐阜(サッカー)、トヨタ紡織(女子バスケットボール)のチームドクターとしても活躍しています。

<所属学会>

日本整形外科学会
(専門医・認定脊柱脊髄病医)
日本リウマチ学会(専門医)
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
日本整形外科スポーツ医学学会
日本臨床スポーツ医学会
日本足の外科学会
日本肩関節学会
日本体育協会(公認スポーツドクター)
日本医師会(認定産業医)

外来・入院満足度調査 結果報告

八千代病院は「クオリティ・ホスピタル」を目標に掲げ、安全で安心な医療の提供に努めるとともに、接遇や施設の改善を重ね、患者さんにより満足いただける療養環境の実現に取り組んでいます。その成果を把握し、さらなる改善に役立てるために、年1回実施している満足度調査の結果を取りまとめましたので、ご報告いたします。

【平成28年度外来・入院満足度調査 概要】

■対象：外来患者さん、入院患者さん

■調査票配布・回収数

■調査期間：外来／平成28年9月5日(月)～7日(水)
入院／平成28年9月5日(月)～18日(日)

	配布数	回収数	回収率
外来	1,523	1,111	72.9%
入院	319	220	69.0%

■調査方法：無記名式によるアンケート



【外来満足度調査 結果】

〈凡例〉 良かった やや良かった やや悪かった 悪かった

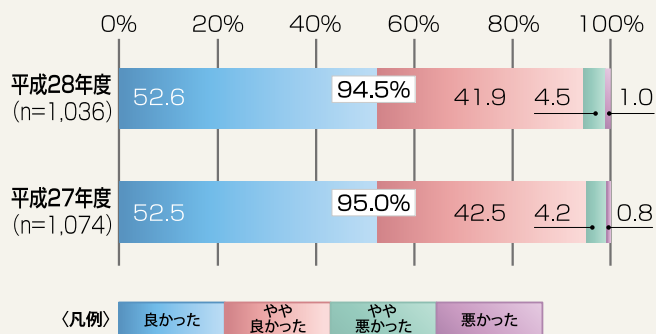
設問	有効回答	0%	20%	40%	60%	80%	100%
接 遇	問 1 医師のあいさつ・言葉遣いや態度	1,064	75.8	21.3	1.9	1.0	
	問 2 看護師のあいさつ・言葉遣いや態度	1,065	78.3	20.2	1.1	0.4	
	問 3 放射線技師のあいさつ・言葉遣いや態度	585	77.1	20.7	2.1	0.2	
	問 4 検査技師のあいさつ・言葉遣いや態度	668	74.3	23.1	2.4	0.3	
	問 5 薬剤師のあいさつ・言葉遣いや態度	841	72.7	25.3	1.7	0.4	
	問 6 受付・事務職員のあいさつ・言葉遣いや態度	1,040	76.1	20.9	2.4	0.7	
診 療 ・ 看 護	問 7 医師の説明のわかりやすさ	1,049	67.0	26.5	5.2	1.2	
	問 8 看護師の説明のわかりやすさ	981	71.6	25.4	2.2	0.8	
	問 9 看護師の処置	837	70.6	26.4	2.6	0.4	
	問 10 採血は安心して受けられた	726	73.0	23.1	2.6	1.2	
	問 11 レントゲンは安心して受けられた	593	77.9	20.6	1.3	0.2	
	問 12 リハビリは安心して受けられた	300	73.3	22.3	3.7	0.7	
施 設	問 13 駐車場や駐輪場の使いやすさ	908	47.0	37.3	11.1	4.5	
	問 14 病院内の温度などの快適さ	1,049	61.5	32.4	4.8	1.3	
	問 15 トイレの清潔さ	1,039	69.0	27.1	3.3	0.6	
	問 16 院内通路の清潔さ	1,056	75.6	22.4	1.9	0.1	
	問 17 院内通路の通りやすさ	1,052	67.6	26.3	5.1	1.0	
	問 18 案内表示のわかりやすさ	1,019	57.9	35.3	6.0	0.8	
	問 19 売店の品揃え	729	46.6	44.2	8.0	1.2	
待 ち 時 間	問 20 診察の待ち時間	1,038	24.5	36.4	25.3	13.8	
	問 21 お薬の待ち時間	914	30.9	45.7	18.3	5.1	

※構成比は、「該当しない」「無回答」を除く有効回答をもとに算出。小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

総合評価

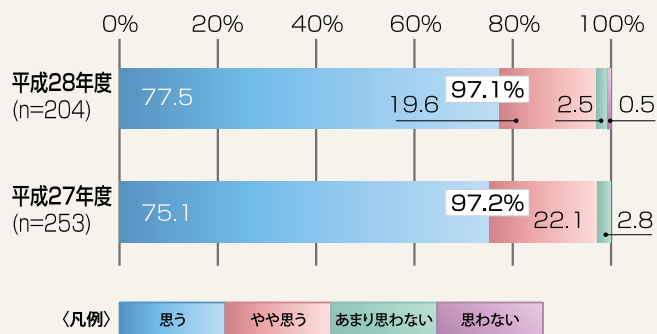
■外来満足度 総合評価

設問「全体として利用しやすく、満足できた」

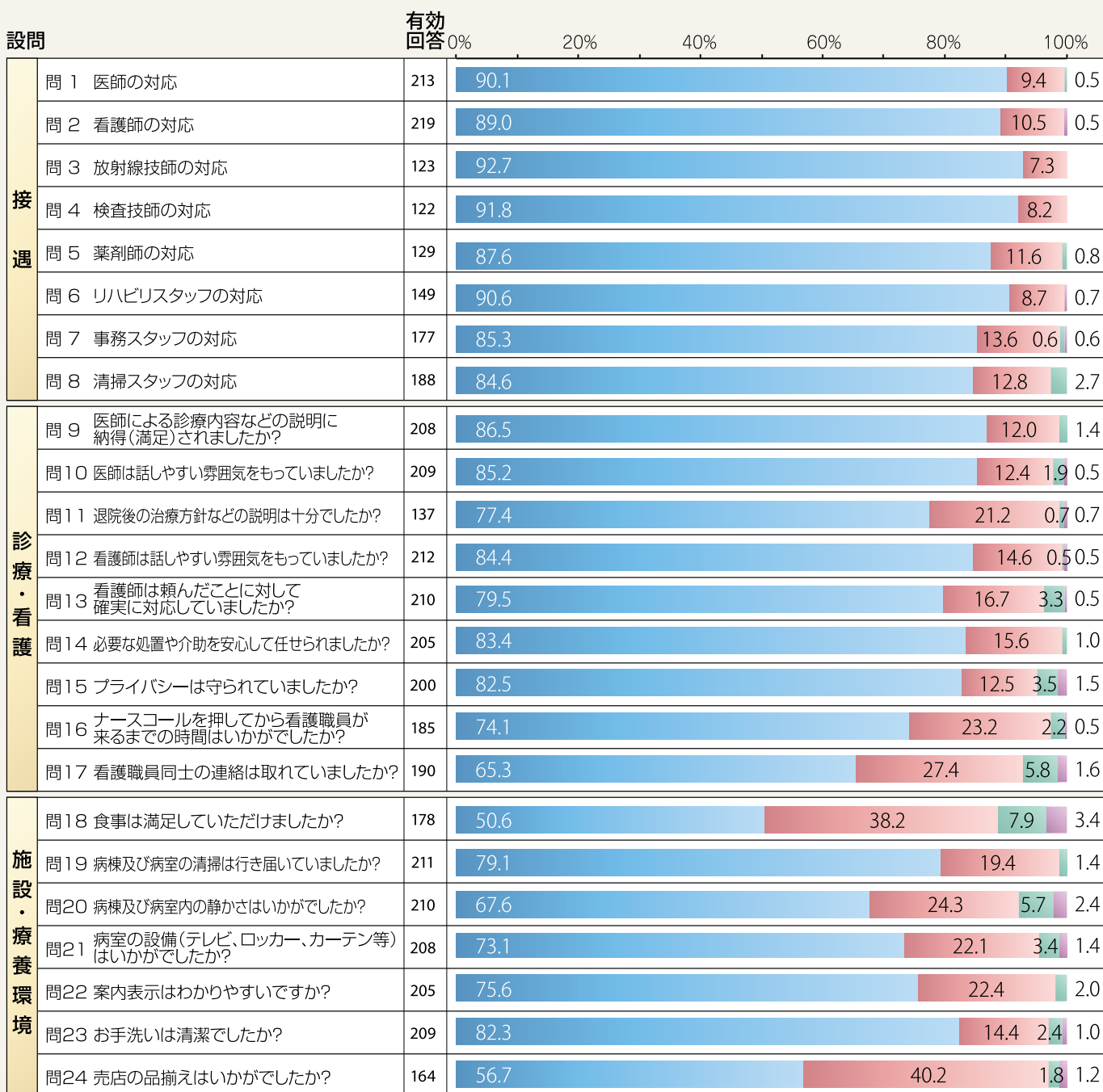


■入院満足度 総合評価

設問「家族や友達に当院を紹介したいと思いますか？」



【入院満足度調査 結果】



満足度調査の結果について

総合評価では、外来95%、入院97%の方が好評価

外来・入院の総合的な評価をうかがう設問(前頁上段参照)に、外来調査では95%の方が「満足できた※1」と回答。入院調査では97%の方が「紹介したいと思う※2」と回答し、高い評価をいただきました。

※1：良かった、やや良かったの合計 ※2：思う、やや思うの合計

外来調査 待ち時間の短縮が課題

外来調査では、近年「待ち時間」の満足度が低く重点課題となっています。医師や薬剤師を増員して待ち時間の短縮を図るとともに、待ち時間の質を向上させるため「電話呼び出しサービス」を導入するなどの取り組みを行っていますが、患者さんの数が年々増加していることもあり、効果的な改善には結びついていません。今後は、予約枠の見直しを図るなどさらなる対策を行い、待ち時間の改善に取り組んでいきます。

入院調査 インフォームド・コンセントの満足度が向上

前年度の調査結果と比較してみると、変動が最も大きかったのは「接遇」の項目で、設問1～8のすべての部門でポイントがアップしました。また、「診察・看護」の項目において、医師による診療内容の説明(問9)、退院後の治療方針の説明(問11)など「インフォームド・コンセント」に関わる満足度が向上。患者さんとのコミュニケーションを重視し、チームで分かりやすい説明に取り組んだ成果が表れる結果となりました。

診療予約について

当院の診療予約枠は30分単位で設定しています。予約枠内には複数の患者さんの予約が入る仕組みとなっており、予約時間は目安となります。診察の状況によりお待ちいただく場合もありますので、皆様にはご理解いただきますようお願いいたします。

●たとえば予約時間が9:00の場合
9:00～9:30が診察時間の目安です。



満足度調査の結果、および自由意見欄に記入いただいた皆様からの貴重なご意見は、当院の全部門で共有しています。ご利用いただいたすべての方に、「八千代病院に行けば安心」「かかって本当に良かった」と感じていただけるよう、これからも職員一丸となって、改善を重ねてまいります。

最後に、調査にご協力いただいた皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

当院へのご意見・ご要望はこちらへ

病院玄関ホールに「みなさまの声」ボックスを設置しています。職員のマナー、設備、療養環境など、お気づきの点がありましたらどうぞお知らせください。いただいたご意見への対応・改善状況につきましては、脳神経外科前の掲示板に掲示していますので、こちらをご覧ください。

